

ドナルド・キーンさんを覚えていますか？偉大な日本文学研究者であり、日本の名作を多数英訳し世界に紹介されました。2012年3月初めに89歳で日本国籍を取得された時のお話しは忘れることができません。

2011年3月の東日本大震災の後「地震や津波、原発事故があっても日本人が落ち着いていたことに感心しました。日本人が好きです。日本人として死にたい」。さらに「そのような日本人に寄り添いたい」と話された時の目は美しく澄み切っていました。そこまでの思いを抱かせるものが日本人にあると思うと素直に嬉しく思いました。ところが僅か数年の間に世の中の空気が大きく変わったような気がします。故郷を離れざるを得なかった多くの震災被災者が、心無い中傷を受けた話が伝わります。排除という言葉も使われています。

そして今度は新型ウィルス感染です。得体の知れない物に

対する怖さが私たちに不安をもたらしました。誰もが感染し、感染させる可能性があるにも関わらず感染者＝感染源として追い込まれます。完治しても一度貼られたレッテルはどこまでもついて回り、いたたまれず引越して追いやられたという悲しい例もあるようです。いつから窮地に陥った人を中傷するような厭な社会になってしまったのでしょうか。

今キーンさんが存命ならこの日本をどう思われるでしょうか？晩年の遺言ともいえる言葉で「愛する日本を外国人として批判するのではなく、日本人として苦言を呈したかった。そして戦後築き上げてきた平和を損なわないように」との警鐘も鳴らされています。平成・令和の世が文字通り平和であり続けるように8月は平和文化について考えたいと思います。

大津絵踊りに魅せられて

6月20日終了

去る6月20日、湖畔の旧山元春拳邸で開かれた「大津絵踊り」を見せていただく機会に恵まれ、伝統文化の持つ歴史の奥深さを堪能することができました。大津に住んで半世紀ちかく、江戸時代から続いてきた大津絵には触れる折が多々あり、藤娘・鬼の巡礼・釣鐘弁慶・槍持奴等々の個性的な人物像の筆致は馴染み深いものです。

今回、この絵を題材にした踊りを観てその素晴らしさにすっかり魅せられました。ご説明によれば、この踊りは江戸末期に作られ全国に広がった大津絵節に振付けをして画題の人物の面を使用して踊るものです。当時、東海道を京へ上る逢坂の宿の花街で芸妓さんが三味線に合わせて華やかに踊り旅人たちを喜ばせた事、その雰囲気は現在までそのまま保たれていることに深い感銘を覚えたことでした。

大津絵節の元唄は絵の人物の所作を歌うものですが、感心したのは近江八景を歌い込んだ替唄です。栗津・堅田・石山等々の地名を巧みな掛詞にして恋歌風に詠み込んだ作者の芸の深さとともに、わが国の文化の奥深さを改めて感じました。踊りを披露された NPO 法人大津絵踊り保存会の方々の所作の美しさが十分に伝わってきて、伝統文化を守っておられる方々に重ねて敬意を感じた次第です。(廣田勇記)



7/14 「気象のお話」
終わりました

気象学の大家である先生から、潮の満ち引き、大気(空気)の関わり合いの歴史をお聞きし昨今の自然の脅威だけでなく、ロマンを垣間みたひと時でした～

長月ミニ茶会のご案内

暦では「秋分」を過ぎよい気候を迎えます。本格的な秋に向かう前に和菓子と薄茶でちよっと一休みはいかがですか？

9月26日(土)

一席目 11時～

二席目 13時～

各席 五・六名様程度

会費 千三百円

場所 リュエルしなやか

申し込み 電話・ファックス・メール

新型コロナウイルスの状況によって
延期になることもあります